

## 1. キーボードの概要

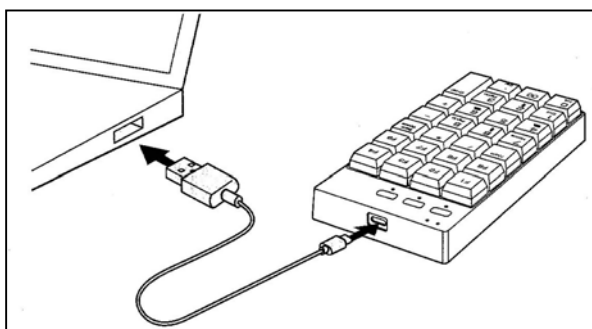
P510B 片手キーボードは 27 個のキーを 3 つの動作モードの切替で、109 日本語キーボードのファンクションキーといくつかの制御キーを除いたほとんどのキーを割り付けたキーボードです。基本的にはこのキーボードだけで日本語混じり文の入力を可能とした左右両手用片手キーボードです。しかしモード 1 における数字キー等は割付ソフトの対象外であるため、パソコン内の管理情報を変更して所要のキー動作を実現しています。したがってこの変更を行う初期設定がなされていないパソコンでは数字等の文字入力が正常に行われません。（別冊の初期設定説明書を参照）

日本語入力はマイクロソフト IME のローマ字入力方式で行い、かな入力方式には対応していません。

## 2. パソコンとの接続と MODE スイッチ

下図左のとおり付属の USB ケーブルで本キーボードとパソコンを接続します。接続が完了するとキーボードの Power ランプが緑色に点灯します。

本キーボードは下図右に示す位置に 3 つのモードスイッチがあり、スイッチを押すことでモード切替えができ対応するランプが青色に点灯します。



## 3. 各モードにおけるキーレイアウト

MODE 1 は主として「全角/半角」や「英小文字/英大文字」など文字種の切り替え時と数字の入力時に、MODE2 はかな文字の入力時に、また MODE3 は主として記号の入力時に使います。

下図に各モードにおけるキーレイアウトを示します。

MODE1（数字モード）

0	' / 7	( 8	) 9		Esc	半角/全角
00	\$ 4	% 5	& 6	↑	Home	カタカナ ひらがな
Shift	! 1	" 2	# 3	↓	End	英子文字 / 大文字
Enter	Windows	Alt	Back Space	Del	Space	

MODE2（かなモード）

G	Z	D	P	B	W	R
K	S	T	N	H	M	Y
Shift	A	I	U	E	O	L
Enter	無変換	←	Back Space	→	Space	

MODE3（記号モード）

Ctrl	C	F	J	Q	V	X
Tab	=	~ ^	¥	` @	{ [	} ]
Shift	+ ;	* :	< ,	> .	? /	~ \
Enter	無変換	←	Back Space	→	Space	

キーボードトップの外観を下図に示します。



上図において4つの黒地キーは全モード共通キーで、3つの薄青地のキーはMODE2 とMODE3 共通のキーであることを意味します。

MODE1の文字と Shift字(青文字)		
	4 \$	
MODE2 の文字 (赤文字)	S ー二	MODE3の文 字とShift字 (黒文字)

各キーのラベルは左図の如くに3つの表記位置に分かれており、上部にはMODE1、下部左にはMODE2、そして下部右にはMODE3状態でのキー押下で入力される文字を表記しています。1つの表記位置に2つの文字がある場合は右側に表記されている文字(左図では“\$”と“=”)はShiftモードで入力される文字です。

#### 4．制御キーの動作

キーボード操作において多くの制御キーを使います。本片手キーボードにも多くの制御キーがあります。その一覧を次ページに示しますので、それらの機能を理解してください。

## P5108片手キーボードの制御キー一覧

キーの名称	キーラベル	設定MODE	キーの機能	機能の持続性
半角/全角		MODE1	IMEの入力モードを「全角」と「半角」に押下の都度交互に設定する	再度の押下まで持続
カタカナ ひらがな		MODE1	IME入力モードが何であろうとも「ひらがな」モードになる。2回押しても「ひらがな」のまま。	「半角/全角」の押下まで持続
英小文字/ 英大文字		MODE1	Caps Lock状態のON/OFFを交互に設定する ON状態でアルファベットを入力すると英大文字が入力される。	再度の押下まで持続
無変換		MODE2 MODE3	未確定文字が無い状態では入力モードが切替わる 現状が日本語用モードの場合「全角カタカナ」「半角カタカナ」「ひらがな」の順に切り替わる 現状が「英数字」モードの場合、「Shift」との併用で「半角英数字」「全角英数字」モードへ交互に切り替わる。 未確定文字がある場合は3つの日本語文字種へ順番に変換される。「Shift」との併用で英文字の半角と全角へ交互に変換される	押下の都度に動作
Ctrl		MODE3	このキーを押しながら他のキーを押す 「ショートカット」操作に使用する	押下の都度に動作 押下状態を固定することも可能
Windows		MODE1	このキーを押しながら他のキーを押す 「ショートカット」操作に使用する	押下の都度に動作 押下状態を固定することも可能
Alt		MODE1	このキーを押しながら他のキーを押す 「ショートカット」操作に使用する	押下の都度に動作 押下状態を固定することも可能
Esc		MODE1	実行中の処理を中止したり、入力中の文字をキャンセルしたりします。	押下の都度に動作
End		MODE1	文字入力中はカーソルを行末に移動させ、画面表示時はスクロールバーが一番下までスクロールします	押下の都度に動作
Home		MODE1	文字入力中はカーソルを行頭に移動させ、画面表示時はスクロールバーが一番上までスクロールします	押下の都度に動作
Del		MODE1	カーソル位置から右側の文字を1文字ずつ削除したり、ファイルやオブジェクトを削除します	押下の都度に動作 長押しで連続して削除ができる。
Tab		MODE3	入力項目間を移動する、文書作成時にインデント(字下げ)を行う。入力フォームで、氏名や住所などの入力欄を次に進む。「Shift」+「Tab」で戻る	押下の都度に動作
Shift		全モード	アルファベットキーと組み合わせると大文字に、数字や記号キーと組み合わせるとラベル上右側に表記された記号を入力します。	押下の都度に動作 押下状態を固定することも可能
Back Space		全モード	カーソルより左側の文字を1文字ずつ削除します。長押しすると連続して削除できます。	押下の都度に動作
Space		全モード	文字の間に空白(スペース)を入力します。日本語入力時には、ひらがなを漢字やカタカナに変換します。	押下の都度に動作
Enter		全モード	文書作成中はカーソルを次の行に移し、コマンド入力時には実行の合図となり、日本語入力中は文字を確定します。	押下の都度に動作
↑ ↓		MODE1	カーソルを上または下に移動します。長押しすると連続して移動します。	押下の都度に動作
← →		MODE2 MODE3	カーソルを左または右に移動します。長押しすると連続して移動します。	押下の都度に動作



## 5. 文字入力操作

### (1) IME 入力モードの切り替えと未確定文字の変換

MODE1 にある「半角/全角」と「カタカナ/ひらがな」および「Shift」+「Space」  
「半角英数字」または「ひらがな」モードの状態では「半角/全角」を押すと、IME の入力  
モードが「ひらがな」と「半角英数字」に押す都度交互に切り替わります。  
「カタカナ/ひらがな」を押すと、どのモードであっても「ひらがな」モードに切り替わり  
ます。



上記の操作は MODE スイッチの操作が必要となりますが、MODE2 と MODE3 で

**Shift** + **Space** の操作をすることで上述の「半角/全角」と同じ動作となります。モード変更  
が不要となるので、半角モードと全角モードの切り替えはこれを推奨します。  
(この機能は IME の設定変更が必要ですので別冊「初期設定説明書」を参照)

### MODE2 と MODE3 にある「無変換」

「ひらがな」、「全角カタカナ」または「半角カタカナ」モードの状態では入力中の文章  
に未確定文字が無い場合に「無変換」を押すと、IME の入力モードが「全角カタカナ」、  
「半角カタカナ」および「ひらがな」へ押す都度順番に切り替わります。



### 「Shift」を押しながら「無変換」

入力中の文章に未確定文字が無い場合に「Shift」を押しながら「無変換」を押すと、  
IME の入力モードが「全角英数字」と「半角英数字」に押す都度交互に切り替わります。



### 未確定文字を他の日本語文字種への変換

入力中の文章に未確定文字がある場合に「無変換」を押すと、未確定文字が押す都度  
「ひらがな」、「全角カタカナ」、「半角カタカナ」の順番に変換されます。



### 未確定文字を英文字文字種への変換

入力中の文章に未確定文字がある場合に「Shift」を押しながら「無変換」を押すと、押  
す都度未確定文字が「全角英数字」と「半角英数字」に交互に変換されます。



上述、Ⅰ、Ⅱの方法で文字入力前に入力モードを切り替えてから文字を入力するのが  
基本的な操作法ですが。上記Ⅲの方法は文字の入力前に入力モードの切り替えをせず  
に、文字入力後に意図した文字種に変換できるので操作性が良いとも考えられます。

選択されている入力モードが画面に表示されている IME ツールバーに表示されるので  
確認できます。IME ツールバーの左端にマウスカーソルを置きながら左ボタンを押した  
状態で、マウスを動かすと IME ツールバーが移動するので使い易い位置に置いて下さい。

## (2) 半角アルファベット

IME の入力モード「半角英数字」状態でアルファベットキーで入力します。C,F,J,Q,V,X の 6 文字は MODE3 で入力し、その他のアルファベット 20 文字は MODE 2 で入力します。

通常は単にアルファベットキーを押すことで小文字が入力され、「Shift」を押しながらアルファベットキーを押すことでアルファベット大文字が入力されます。

連続してアルファベット大文字を入力する場合は「Caps Lock」状態にしておけば、アルファベットキーを押すだけでアルファベット大文字の入力ができます。逆に「Caps Lock」状態で「Shift」キーを押しながらアルファベットキーを入力するとアルファベット小文字が入力されます。

本片手キーボードでは「英小文字/英大文字」キーを押すことで「Caps Lock」状態になり、再度このキーを押すことで「Caps Lock」状態が解除されます。

英小文字”s”を入力する場合は下図左の通りに、英大文字”S”を入力する場合は下図右の通りに行います。



英大文字の入力が連続する場合や「Shift」と他のキーの同時押しがやり辛い場合には、MODE 1 で「英小文字/英大文字」を押して「Caps Lock」状態にして、アルファベットキーだけを押すことで楽にアルファベット大文字が入力できます。

例えば”ABC”と入力する場合下図の操作となります。

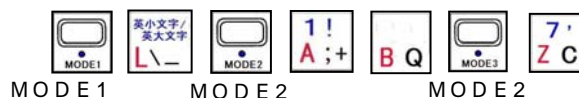


## (3) 全角アルファベット

IME の入力モード「全角英数字」状態で MODE2 および MODE3 において。アルファベットキーで入力します。アルファベット文字の入力は前述した「半角アルファベット」の入力と同様の操作をします。

「ひらがな」モードのままアルファベットを入力すると、入力した文字がひらがな混じりの文字列に変換されてしまいますが、「Shift」キーを押しながら「無変換」キーを押すと全角アルファベットに戻ります。この操作を 2 回行くと半角アルファベットに変換されます。この操作は入力が小文字で行われた場合はアルファベット小文字に変換され、大文字で入力した場合はアルファベット大文字に変換されます。

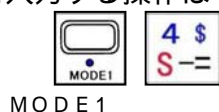
全角で”A B C”を入力する場合は下図の操作となります。



## (4) 数字

数字は MODE 1 で入力します。IME の入力モードが「半角」状態で数字キーを入力すると半角数字が入力されます。IME の入力モードが「全角」状態で数字キーを入力すると全角数字が入力されます。なお「半角英数字」と「全角英数字」の入力モード切替え操作は、未確定文字が無い状態で「Shift」を押しながら「無変換」を押すことでも可能です。

数字”4”を入力する操作は下図の通りに行います。

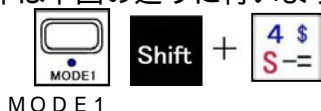


## (5) 記号

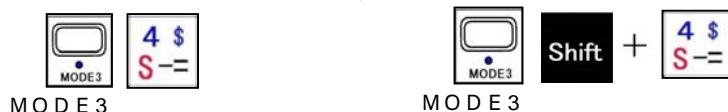
「#」、「%」など数字キーで入力する記号は MODE1 で入力します。「Shift」キーを押しながら数字キーを押すことで9種類の記号が入力できます。「,(コンマ)」や「.(ピリオド)」や「=」などの記号は MODE 3 で入力します。

IME の入力モードが「半角」状態で入力すると半角記号が、また IME の入力モードが「全角」状態で入力すると全角記号が入力されます。

記号”\$”を入力する操作は下図の通りに行います。



記号”-”を入力する場合は下図左の通りに、また”=”の場合は下図右の操作を行います。



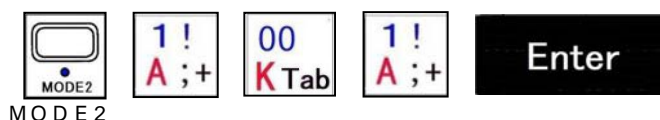
## (6) ひらがなと漢字

ひらがなは IME の入力モード「ひらがな」状態で、主として MODE 2 のアルファベットキーを使って次ページの訓令式ローマ字表にしたがって入力します。「ja(じゃ)」や「fe(ふえ)」などのヘボン式ローマ字で入力する場合は MODE 3 のアルファベットキーも使用します。

促音(小さい”つ”)、あ行とや行の小さい文字の単独入力は、「L」に続けて小さくしたい文字のローマ字を入力します。

ひらがなで入力した文字列を漢字に変換するには、「Space」キーを押します。変換候補がリスト表示されたなら、「Space」キーで求める漢字に移動するか、候補番号を数字入力して候補を選択した後に「Enter」キーを押して漢字を確定します。

”あか”を入力する場合は下図の通りに入力します。

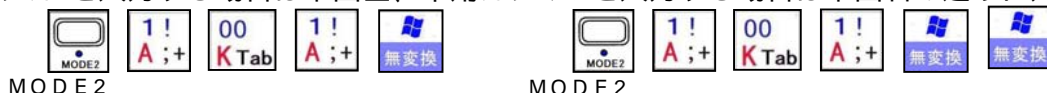


”赤”を入力する場合は上図の操作において「Enter」で確定する前に「Space 変換」を何度か押し、候補リストの中から“赤”を選択して「Enter」を押します。

## (7) カタカナ

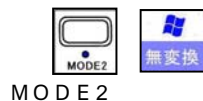
ひらがなで入力し確定する前に「無変換」キーを1回押すと全角カタカナになり、2回押すと半角カタカナになります。3回押すとひらがなに戻ります。

”アカ”を入力する場合は下図左、半角カナ”ア”を入力する場合は下図右の通りに入力します。



ひらがなでの入力前に「無変換」を押すごとに、IME 入力モードが「全角カタカナ」、「半角カタカナ」、「ひらがな」の順に切り替わります。この操作によって入力したい文字種の入力モードに切り替えてから、意図する文字種の文字で入力することが可能となります。

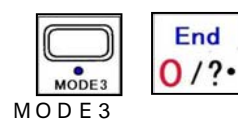
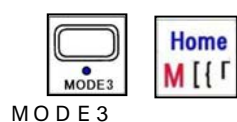
「ひらがな」入力モードから「全角カタカナ」入力モードに切り替える場合は下図左の操作をします。下図右の如く「無変換」を 2 度押すと「半角カタカタ」入力モードになります。



## ( 8 ) 日本語用全角記号

IME 入力モード「ひらがな」状態で、MODE3 の記号キーで入力します。読点 (、) は「,」キー、句点 (。) は「.」キー、中点 (・) は「/」キー、左カギ括弧 (「) は「[」キー、右カギ括弧 (」) は「]」キー、長音 ( - ) は「-」キーで入力します。

左カギ括弧を入力する場合は下図左、中点を入力する場合は下図右の操作をします。





# 訓令式ローマ字表

	段		あ	い	う	え	お	小さい「あ」や「つ」や「ゆ」は「L」に続けて「a」や「tu」や「yu」を入力します。		
行	大文字	小文字	A	I	U	E	O			
あ	A	a	あ	い	う	え	お			
か	K	k	か	き	く	け	こ	きゃ	きゅ	きょ
さ	S	s	さ	し	す	せ	そ	しゃ	しゅ	しょ
た	T	t	た	ち	つ	て	と	ちゃ	ちゅ	ちょ
な	N	n	な	に	ぬ	ね	の	みゃ	みゅ	みょ
は	H	h	は	ひ	ふ	へ	ほ	ひゃ	ひゅ	ひょ
ま	M	m	ま	み	む	め	も	みゃ	みゅ	みょ
や	Y	y	や		ゆ		よ			
ら	R	r	ら	り	る	れ	ろ	りゃ	りゅ	りょ
わ	W	w	わ				を			
ん	N	n	ん							
が	G	g	が	ぎ	ぐ	げ	ご	ぎゃ	ぎゅ	ぎょ
ざ	Z	z	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	じゃ	じゅ	じょ
だ	D	d	だ	ぢ	づ	で	ど	ぢゃ	ぢゅ	ぢょ
ば	B	b	ば	び	ぶ	べ	ぼ	びゃ	びゅ	びょ
ぱ	P	p	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ	ぴゃ	ぴゅ	ぴょ



## 6 . 文字入力 of 練習

ここでは、文字入力 of 練習を兼ねて、簡単な文書を入力する事例を記します。

### 6 . 1 作成文書 of 例

この文章を作ってみましょう

〒 1 2 0 - 0 3 0 4

東京都新宿区大手町

令和 太郎様

日本語入力 of 事例です。

( 1 ) 英文大文字・小文字 of 入力 is、「Abc」で説明します。

注 Abc は半角です

( 2 ) 日本語「ありがとう。」は次の要領で入力します。

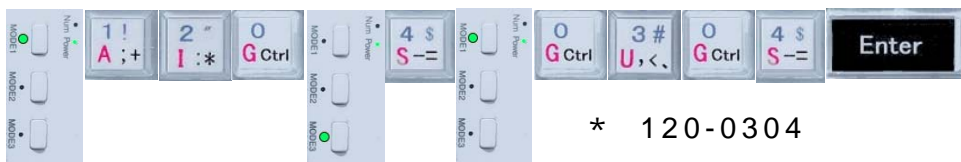
( 3 ) 記号「25%」や「3 > 2 x」は次の様に入力します。

終わり。

〒 全角「郵便番号」で入力する



120-0304 (半角英数字)



東京都新宿区大手町





(漢字変換)

令和 太郎様

\* (文字サイズを大きくする) \*

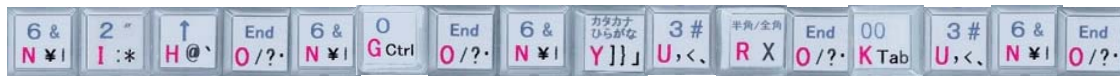


(漢字変換)

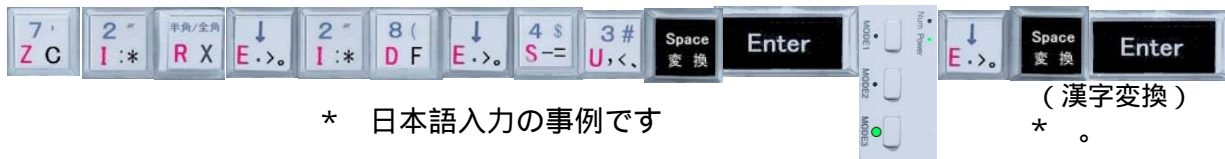
\* 令和 太郎様

\* (文字サイズを戻す) \*

日本語入力の



事例です。

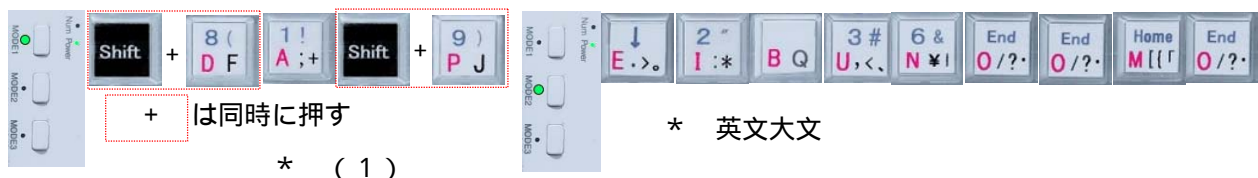


(漢字変換)

\* 日本語入力の事例です

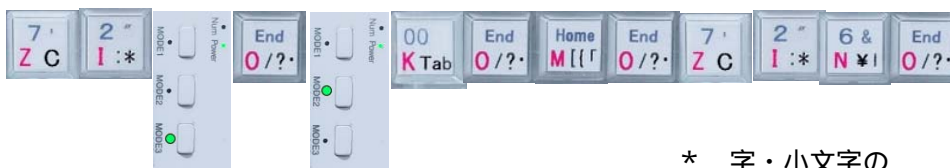
\* 。

(1) 英文大文字・小文字の入力は、「Abc」で説明します。



\* 英文大文

\* (1)



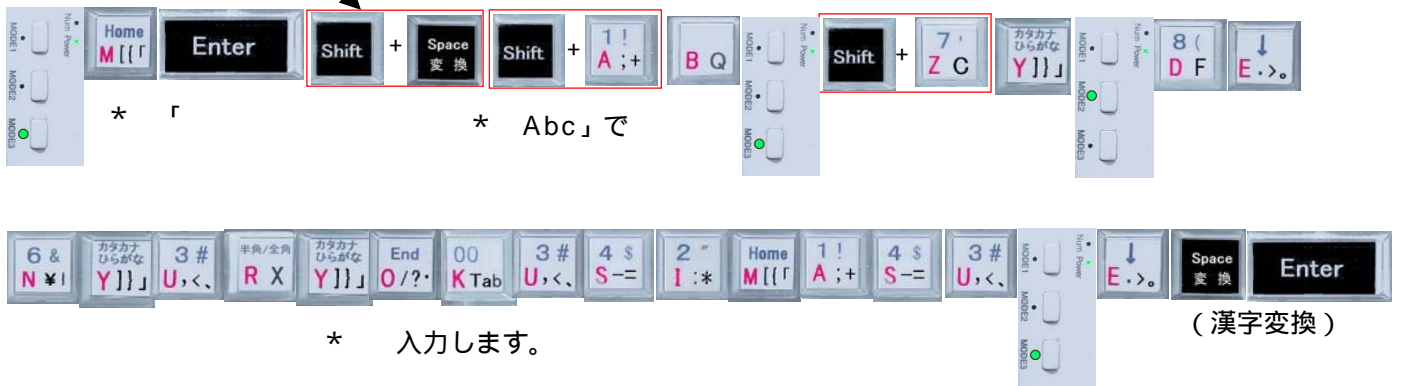
\* 字・小文字の



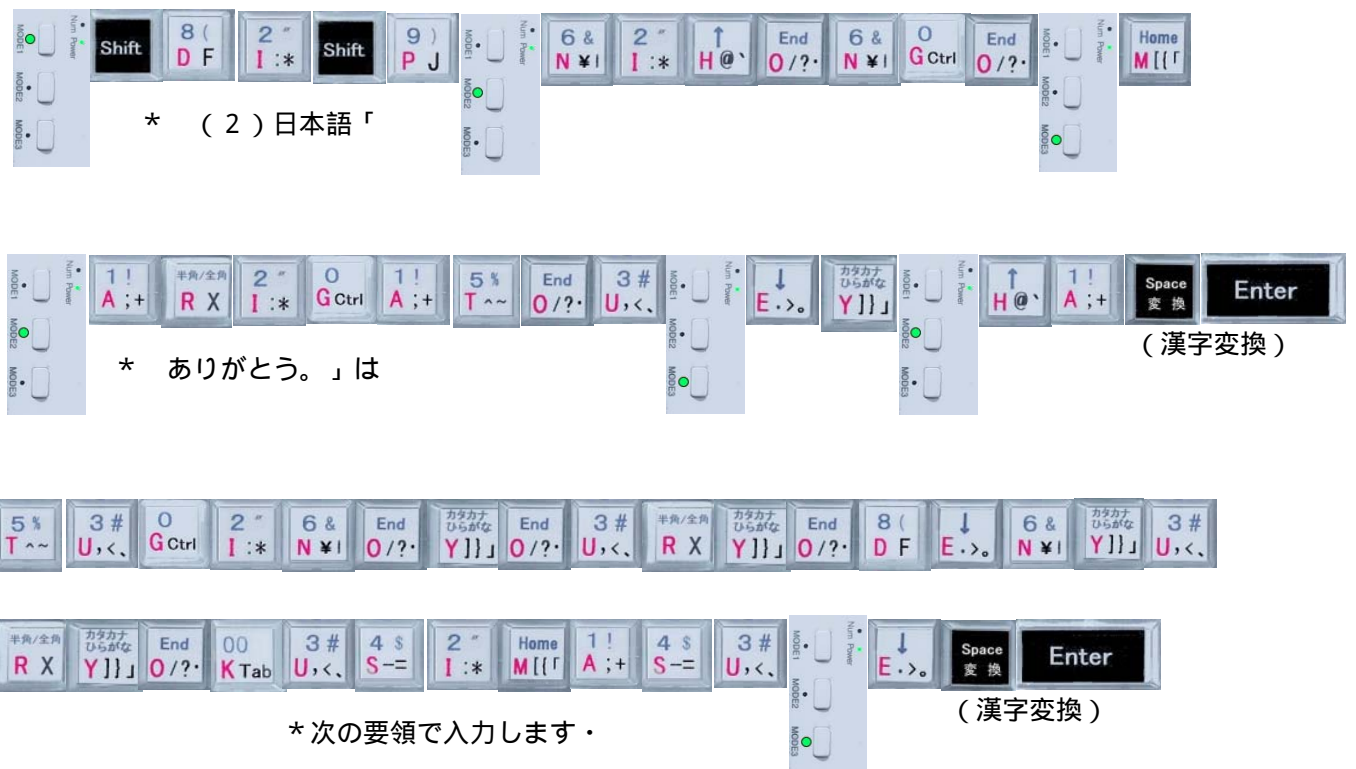
(漢字変換)

\* 入力は、

注 英数字半角小文字モードに変更



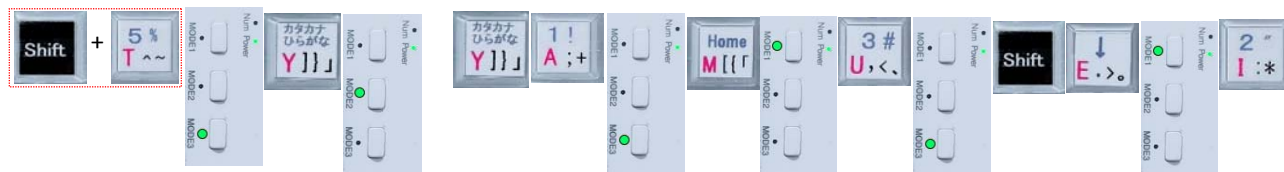
( 2 ) 日本語「ありがとう。」は次の要領で入力します。



( 3 ) 記号「25%」や「3 > 2 x」は次の様に入力します。



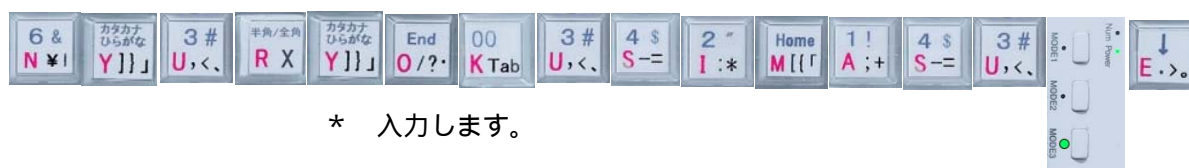




\* %」や「3>2



\* x」は次の様に



\* 入力します。



(漢字変換)

終わり。



\* 終わり。

(漢字変換)

以上で入力操作の事例説明を終わります。

この事例では、日本語入力を一行全て入力してから「変換(Space)」「確定(Enter)」の操作をしています。適当な長さで区切って都度「変換」「確定」をしても構いません。貴方の都合の良い区切りで「変換」「確定」を行って下さい。

## 7. 参考情報

以下に述べる事項は片手キーボードを使用されるユーザ様に参考情報として提供するものでそれら情報が不必要な方は読み飛ばされて結構です。

### (1) 「固定キー機能」による Shift キー等のロック

「Shift」「Ctrl」「Alt」および「Windows」の4つのキーを”修飾キー”と呼び、これらのキーを押しながら文字キーを押すショートカットで多用されます。この内「Shift」はどのMODEにも割当てられているので問題ないのですが、他の3つのキーは1つのMODEにのみ割当てられているのでショートカット入力ができない場合があります。例えば「Ctrl」+「A」を入力しようとしても「Ctrl」はMODE3に、「A」はMODE2に割り付けられているので同時に押すことができません。また片手でのキーボード操作の場合複数キーの同時押しがやり辛い事もあるでしょう。

この問題に対応できる機能として WindowsOS の「固定キー機能」があります。事前に Windows10 では「設定」⇒「簡単操作」⇒「キーボード」で、Windows11 では「設定」⇒「アクセシビリティ」⇒「操作」⇒「キーボード」において設定をしておけば、必要に応じて”ロック/ロック解除”をキーボード操作だけで可能となります。(下図左を参照)

4つの修飾キーを夫々単独でロック状態にすることも、複数の修飾キーをロック状態にすることもできます。この機能の操作方法は「Shift」を5回連打して固定キー機能をオンにすると、通知領域にロック状態表示アイコンが現れます。この状態で修飾キーを押すと押したキーがロックされます。そしてロック状態表示アイコンにどのキーがロックされているかが表示されます。(下図右を参照)

下図左の設定画面において、修飾キーの2度押しでロックする設定や固定キー機能オン時に警告メッセージや音を出す等の動作設定ができるので、使い易い設定に変更してください。

片手で2つ以上のキーを同時に押す操作が困難な場合に、この「固定キー機能」を使えば、これら修飾キーと他のキーの同時押しが容易にできるようになります。

#### 固定キー機能を使用する

キーボードショートカットで一度に1つずつキーを押す

☒ オン

☒ 固定キー機能を起動するショートカット キーを許可する

Shift キーを5回押して、固定キー機能をオンまたはオフにする

☒ タスクバーに固定キー機能のアイコンを表示する

☒ 修飾キーを2回続けて押したときはロックする

☒ 2つのキーを同時に押すと固定キー機能をオフにする

☒ 修飾キーを押して離れたときに音を鳴らす

#### 入力しやすくする

☒ キーボードから固定キー機能、切り替えキー機能、またはフィルターキー機能をオンにするときに警告メッセージを表示する

☒ 固定キー機能、切り替えキー機能、またはフィルターキー機能をキーボードからオンまたはオフにするときに音を鳴らす

#### 固定キー機能の使い方とタスクバーの表示について

固定キー機能を有効にすると、通知領域に固定キー機能のアイコンが表示されます。

固定キー機能が有効な状態で、【Shift】キー、【Ctrl】キー、【Alt】キー、【Windows】キーのいずれかを押すと、キーを押した状態が保たれます。

アイコンの表示で、押されているキーを確認できます。

- ・【Shift】キーが押されている状態の場合  
アイコンの上の部分が黒く表示されます。

- ・【Ctrl】キーが押されている状態の場合  
アイコンの左下部分が黒く表示されます。

- ・【Alt】キーが押されている状態の場合  
アイコンの右下部分が黒く表示されます。

- ・【Windows】キーが押されている状態の場合  
アイコンの下中央部分が黒く表示されます。

## (2) ショートカットキー

キーボードの複数キーを同時に押すショートカットキーを使えば、マウス操作よりも素早くコンピュータやアプリケーションの操作が可能となり、作業効率を大幅に向上させることができます。

以下に主なショートカットを例示しますので参考にして下さい。

### Windows

#### 重要度 ★★★★★

- Ctrl** + **C** ⇒ コピー
- Ctrl** + **V** ⇒ 貼り付け
- Ctrl** + **X** ⇒ 切り取り
- Ctrl** + **Z** ⇒ 1つ前に戻る
- Ctrl** + **マウスホイール** ⇒ 拡大・縮小
- Ctrl** + **クリック** ⇒ 複数選択・選択解除
- Shift** + **クリック** ⇒ 該当箇所まで複数選択
- F2** ⇒ 名前の変更
- ESC** ⇒ 閉じる・キャンセル

#### 重要度 ★★★★★

- Delete** ⇒ 削除
- Ctrl** + **S** ⇒ 上書き保存
- Ctrl** + **A** ⇒ 全選択
- Ctrl** + **F** ⇒ 検索
- Ctrl** + **H** ⇒ 置換
- Ctrl** + **Y** ⇒ やり直し・繰り返す
- Win** + **V** ⇒ クリップボード
- Alt** + **Tab** ⇒ ウィンドウの切り替え
- Ctrl** + **W** ⇒ 閉じる

#### 重要度 ★★★★★

- F12** ⇒ 名前を付けて保存
- Win** + **←**・**→** ⇒ 画面を半分ににする
- Win** + **D** ⇒ 全ウィンドウの非表示・再表示
- Ctrl** + **Shift** + **Esc** ⇒ タスクマネージャーを開く
- Win** + **Shift** + **S** ⇒ 一部分スクリーンショット
- PrintScreen** ⇒ 全画面スクリーンショット
- Win** + **PrintScreen** ⇒ スクリーンショット保存
- Shift** + **矢印** ⇒ 複数選択
- Home** ⇒ 先頭に移動
- End** ⇒ 最後へ移動
- Shift** + **Home** ⇒ 先頭まで選択
- Shift** + **End** ⇒ 最後まで選択
- Shift** + **Del** ⇒ ゴミ箱に移動せず削除

#### 重要度 ★★★★★

- Win** + **E** ⇒ エクスプローラーを開く
- Ctrl** + **P** ⇒ 印刷
- Win** + **↑** ⇒ 最大化
- Win** + **↓** ⇒ 最小化
- Ctrl** + **Win** + **D** ⇒ 仮想デスクトップを作成
- Ctrl** + **Win** + **F4** ⇒ 仮想デスクトップを削除
- Ctrl** + **Win** + **←**・**→** ⇒ 仮想デスクトップを移動
- F5** ⇒ 更新
- Win** + **Tab** ⇒ タイムライン、タスクビュー
- Alt** + **P** ⇒ プレビューパネルを表示する
- Win** + **S** ⇒ 検索を開く

#### 重要度 ★★★★★

- Win** + **数字** ⇒ タスクバーからアプリを起動
- Win** + **L** ⇒ PCをロックする
- Alt** + **←** ⇒ 前のフォルダーに戻る
- Alt** + **→** ⇒ 次のフォルダーに進む
- Win** + **I** ⇒ 設定画面表示
- Alt** + **Enter** ⇒ プロパティ

#### ブラウザ (Chrome)

- Ctrl** + **Tab** ⇒ 右のタブへ移動
- Ctrl** + **Shift** + **Tab** ⇒ 左のタブへ移動
- Ctrl** + **Shift** + **T** ⇒ 直前に閉じたタブを開く
- Ctrl** + **W** ⇒ タブを閉じる
- Alt** + **F4** ⇒ ブラウザを閉じる
- Alt** + **Home** ⇒ ホームを表示
- Shift** + **F5** ⇒ スーパーリロード
- Ctrl** + **Shift** + **N** ⇒ シークレットモード
- F12** ⇒ 開発者ツール



### ( 3 ) パソコン付属のキーボードを併用すれば MODE 変更操作を少なくできます。

日本語を入力する場合は P510R キーボードを MODE 2 の状態で使用するのが主体となります。しかし MODE 2 のキーレイアウトにはないキー、例えば「半角/全角」「カタカナ・ひらがな」「Tab」や「Ctrl」「Alt」などのキー操作する際、MODE 切替え操作が必要となり円滑な操作ができなくなります。

この不便さを無くすために、上述のキーを入力する際パソコン付属のキーボードで入力すれば P510B キーボードでの MODE 切換え操作は必要なくなりキー操作がやり易くなります。

### ( 4 ) 数字の入力はパソコン付属のキーボードで入力する場合

P510B の標準仕様では MODE 1 における数字キーの配列を「ChangeKey」ソフトで変更し、横向きに置いた P510R の数字キーの並び順を通常のテンキーの並びに準じるようにしています。しかし、この変更によってパソコン付属のキーボードを併用している場合、そのキーボードのテンキーも並び順が変わってしまいます。数字の入力はパソコン付属のキーボードで行うユーザもいると思われるので、数字および四則演算記号の並び順を変更しないキーレイアウトもオプションとして可利用能としています。そのためには MODE 1 のテンキー部の設定変更が必要です。具体的な変更手順は「初期設定説明書」を参照してください。この設定変更を行った場合のキーラベルは下図の通りになります。

O	1 !	4 \$	7 ' ,	Num	Esc	半角/全角
G Ctrl	Z C	D F	P J	B Q	W V	R X
00	2 " ' ,	5 %	8 ( )	/	Home	カタカナ ひらがな
K Tab	S - =	T ^ ~	N ¥	H @ ,	M [ {	Y ] } ' ,
.	3 #	6 &	9 )	*	End	英小文字/ 英大文字
Shift	A ; +	I : *	U , < ,	E . > .	O / ? .	L \ _
Enter	+	-	Back Space	Del	Space	変換

このドキュメントの著作権は下記法人が所有します。

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ピ コ

所在地 愛知県名古屋市名東区梅森坂西 1 1 2 0 番地

電 話 0 8 0 - 9 2 8 2 - 9 7 6 8

メールアドレス info2@npo-pico.com